

アメリカの大学スポーツの収支に関する研究

～ディビジョン3と1に加盟する大学に着目して～

A study of revenues and expenses in U.S. College Sports
~focusing on NCAA division 3 and 1 institutions~

スポーツクラブマネジメントコース

5017A317-3 千葉昭浩

研究指導教員：間野義之 教授

1、緒言

日本における大学スポーツについては、これまでに多くの研究者達が、その可能性と抱える課題について論じてきた。そのような背景から、スポーツ庁は、様々な課題を抱えた大学スポーツの抜本的改革のためには、大学横断的かつ競技横断的統括組織が必要であると、2017年「日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会」を設置、日本版NCAAの在り方の検討作業を始めた。

先進事例とされるアメリカの大学スポーツは、宮田(2016)によれば、19世紀後半に誕生したアメリカンフットボールの暴力性が社会的にも問題となり、参加選手資格や競技ルールの策定など、大学スポーツの改革が必要とされた。その背景から、1905年NCAAの原型となる組織が設立され、その後、NCAAに加盟する大学は増え続け、現在1,000校を超えるまでに至っている。

NCAAは、学生数や競技種目などにより区分された3つのディビジョン(以下D)を設けている。D1は大規模な大学が加盟し、D3は小規模な大学が加盟している。

大学スポーツを組織的に行うには大きな予算が必要となるが、加盟する大学数はD3の方が多し。小規模な大学が、何故、大学ス

ポーツを組織的かつ継続的に取り組むことができるのかという疑問が生じる。

2、先行研究

宮田(2016)は、アメリカの大学スポーツを経済学の側面から分析論じているが、大学スポーツによる直接的経済効果は、大規模な大学に限られるとしている。

更に間接的経済効果と考えられる「フルーティ効果」については、Anderson(2012)が、アメリカンフットボールの勝利数が増えることで、寄付金や志願者数の増加、更に新入生のSAT平均スコアのアップが見られたとし、その存在を明らかにしている。しかし、宮田(2016)は、その効果は強豪カンファレンス校ほど大きいとしている。そのことからすれば、小さなカンファレンスに所属する比較的小規模な大学にとって、間接的経済効果についても、あまり期待できないと考えられる。

何故、財政規模の小さな大学が、NCAAに加盟し、大きな予算を必要とする大学スポーツを、組織的かつ継続的に行えるのか。体育总局の収支構造にその一因があるのではないかと考え、本研究に着想した。

3、目的

D3 に加盟する大学に着目し、大学スポーツの収支の特性を明らかにし、小規模な大学が大学スポーツに継続的に取り組める要因を明らかにする。

4、研究方法

本研究では、D3 と D1 に所属する大学を比較し、その違いを明らかにすることで、D3 に加盟する大学の大学スポーツにおける収入と支出の特性を明らかにし、論ずることとした。

5、結果

- 1) D3 に加盟する C カレッジ体育局の予算規模は、D1 に加盟する M 大学体育局の 1/50 であることが明かとなった。
- 2) C カレッジの体育局の予算は、大学全体予算の 2% 程であることが確認できた。M 大学は、5.6% である。
- 3) C カレッジには、収支構造に大きな影響力を持つ競技種目が無いことが確認できた。
- 4) M 大学は、アメリカンフットボールと男子バスケットボールの 2 つの種目が、収支に大きな影響力を持つことが確認できた。
- 5) M 大学は、体育局が財務的に独立しているが、C カレッジは独立していないことが明らかとなった。
- 6) M 大学は、収入の一部を大学へリベートしていることが明かとなった。

6、考察

M 大学の収入構成は、アメリカンフットボールと男子バスケットボールの収入が、男子チーム収入の 92.3% を占め、体育局を支える構造になっている。更に、会計勘定科

目別では、チケット収入、NCAA 放映権等分配金、ポストシーズン分配金、寄付金、スポンサー収入の 5 項目で全収入の 83.9% を占めている。つまり、これら 2 種目の戦績が、収入規模を大きく左右することが明かとなった。また、支出においては、コーチ陣給与と試合運営費が大きな割合を示す。更に、大型専用競技場の建設や維持管理費など、戦績に関係なく支出される固定費が大きな割合を占めていることが確認できた。以上のことから、戦績が伴わない大学の体育局は、厳しい経営環境と考えられる。

一方の D3 に加盟する C カレッジには、そのような特徴は見られず、固定費を抑制することで、比較的小規模な予算で、安定的かつ継続的に計画できると考えられる。

文武両道を目指すリベラルアーツカレッジ校にとって、NCAA への加盟は、NCAA が掲げる理念が共通なものとなり、比較的小規模の予算でこの理念を共有できることが、D3 への参入障壁を小さくしている要因の一つと考えられる。

7、結論

D1 の大学には、大きく収入を依存する競技種目が存在し、限られたそれらの戦績が、収益に大きな影響を与えることが明らかとなった。更に D1 へ加盟するには、大きな設備投資や人材投資が伴い、強固な財政基盤が必要であることがわかった。

一方、D3 の大学は、体育局が財務的に独立していない大学が存在していることが明らかとなった。また、体育局の運営は、比較的財政負担の少ない予算で、安定的かつ継続的な運営が可能であることが明らかとなった。